

【歴代主任司祭】

- 初代 1937年6月1日～故 MARCIANO DIEZ
マルシアノ・ディエス師(1,4,6,9,11代主任司祭)
- 第2代 1946年～故 MACARIO RUIZ マカリオ・ルイス師
(第2,5代主任司祭) 1981年12月30日アビラ帰天(73歳)
- 第3代 故 LEONARDO MARIN レオナルド・マリン師
(第3代主任司祭) 1977年10月29日アビラで帰天(70歳)
- 第7代 故 CIRILO IGLESIAS シリロ・イグレスィアス師
(第7代主任司祭,1973年3月22日バリャドリドで帰天(73歳))
- 第8代 故 CARLOS MARTINEZ カルロス・マルティネス師
(第8,12代主任司祭) 2000年5月20日東京で帰天(77歳)
- 第10代 故 ANTONIO GUTIERREZ
アントニオ・グティエレス師(第10代主任司祭)
- 第14代 故ヘスス・マテオ・コロナド師(第14代主任司祭)
2005年4月11日、アビラで帰天(67歳)
- 第15代 2001年～ハビエル・レチョン師(1年間)高松教区在住
- 第16代 2002年～ラファエル・カストロ師(3年間)スペイン住
- 第17代 2005年～イグナチオ・スベロ師(4年間)スペイン在住
- 第18代 2009年～ホルヘ・ソーザ師(1年間)高松教区在住
- 第19代 2010年～岩崎武師(3年間)高松教区在住
- 第20代 2013年～アルベルト・サイズ師(2年間)担当司祭併任
(道後幼稚園園長)、高松教区在住
- 第21代 2015年～田中正史師(2年間)宇和島教会併任
(宇和島教会主任司祭) 国内在住
- 担当司祭不在、2017年4月1日～11月30日
- 第22代 2017年12月1日～ヨゼフ呉文成師(宇和島教会併任)
- 第23代 2019年4月28日～アシジのフランシスコ申繁時師
(併任)
- 第24代 2023年1月1日～使徒ヨハネ諏訪榮治郎名誉司教(併任)

【年間の主な行事】

- 1月1日 神の母マリアの祭日
3月(4月) 復活祭
5月30日 聖堂再建記念日
6月頃 宇和島教会・八幡浜教会交流会
8月 平和祈願ミサ(聖母被昇天)
9月23日 創立・献堂記念日
12月 降誕祭

【主日ミサ時間】

- 1-2週 八幡浜 10:00 宇和島 13:00
3-4週 八幡浜 13:00 宇和島 10:00
5週目 合同ミサ

【入門講座・聖書講座・結婚式】

直接、担当司祭にお申込みください。

【所在地】

〒796-0033 愛媛県八幡浜市大正町 1182-7
(電話 0895-24-4850(宇和島教会へ転送)
(FAX 0894-22-3003)



【交通案内】

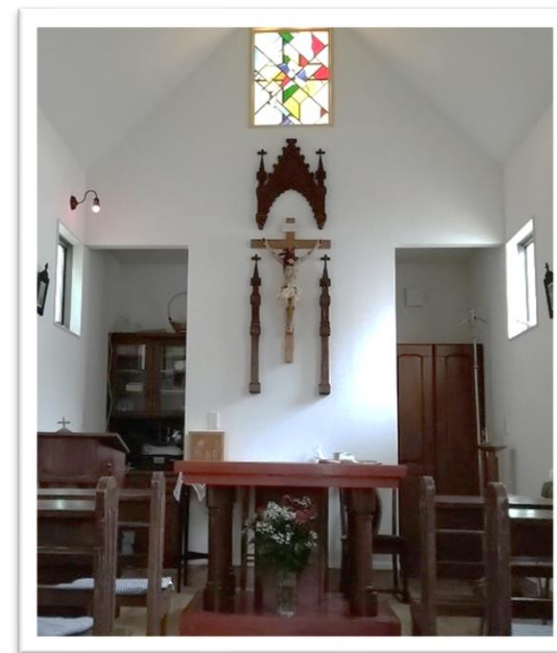
JR：JR 予讃線八幡浜駅下車、国道 197 号線沿いに西へ歩いて 15 分。

バス：JR 駅前～バスに乗換、大正町下車。

【駐車場】

主日には、聖堂前には駐車できません。
来訪の際は、あらかじめご連絡ください。

教会案内



疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。わたしは、柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの轡は負いやすく、わたしの荷は、軽いからである。
(マタイ 11:28-30)

カトリック高松教区カトリック八幡浜教会
2024 年度版

カトリック八幡浜教会の歴史

【八幡浜教会に宣教が行われるまで】

1564年 イエズス会ビレラ神父、ロレンソ・ダミアン修道士の二人の日本人修道士が四国に最初に訪れた。

1565年 イエズス会フロイス神父、アルメイダ修道士、他4名が1月15日伊予堀江の港に到着。8日間滞在し、6名に洗礼を授けた。最初の伊予の信者である。

1575年 土佐の大名一条兼定は、臼杵でファン・パウティス・デル・モンティ神父から受洗、パブロー一条兼定となった。伊予大洲梶屋谷で2年ほど隠遁。この時梶谷氏もてなし、土佐に戻った。

1585年 四国で2名のキリシタン大名のうちの1人、パブロー一条兼定、悪性の熱病で、豊島で死去。

1600年 キリシタン武士稲垣長右衛門は、1632年まで宇和島伊達藩主に仕えた。

1569年～1871年 四国での宗門改めが続いた。

1615年 松山の大名加藤嘉明の家臣シモン佐兵衛は伊予入りする神父たちに常宿を提供し、ディエゴ神父が訪れた際神父らとともに捉えられ、4月20日斬首された。

1624年 伊予では、1200名の信者がいたとのレオン・パジェス証言あり。

1643年 伊予道後に教会と神父館が存在した。

1658年 伊予大洲には1-2名、宇和島には2-3名の信者がいた。(高松、松平藩主文書)

1845年 教皇庁はフォルカード神父を初代日本教区長に任命。

1867年 6月14日、64名が長崎で捉えられ、後長崎浦上四番崩れで3,000-4,000余名が流刑となり四国は三津浜港から伊予、阿波、土佐、讃岐藩にも381名が配流、内78名が虐待で死亡。

世界に報道された。邪宗門高札は四国でも行われた。

1882年 パリ外国宣教会メリノ・プレシス神父、大阪から高知に向かい、四国最初の福音宣教を行った。その後22名の宣教師が四国(徳島、高知、松山、宇和島)で働き、275名が受洗した。

【八幡浜教会の沿革】

1895年 イシドロ・シャロン神父は、八幡浜、岩松を訪問した。

1896年 この頃、イシドロ・シャロン神父は大洲に伝道士をおき、ルルドの水を病人に与えた。

1903年 ドミニコ会ロザリオ管区、ジュール・オーグスト・シャロン大阪司教は四国地区を担当した。

1904年 1月27日ローマ法王庁は、四国全域を四国使徒座知牧区として新設、大阪教区から独立させ、ドミニコ会ロザリオ管区に委託し、2月26日、ロザリオ管区ホセ・アルバレス神父を初代知牧区長に任命。8月ミラン・ドミンガス神父(宇和島)が着任。

1906年 ファン・カルボ神父は、300年前の日本人の信仰が見いだせないと管区報告に記述した。

1918年 マカリオ・ルイズ神父(1969年四国キリシタン史を刊行、本歴史の主要引用文献)

1932年 松山高女教頭の吉田氏が八幡浜高等女学校校長に着任。同高女前の校宅に8人家族で居住。1933年頃、宇和島教会のイシドロ・アダネス神父が八幡浜で巡回ミサを実施。

1935年 裁判所通り借家を「八幡浜カトリック教会」とした。長崎で受洗の伊崎貞子氏が八幡浜教会付伝道師となった。

イシドロ・アダネス神父とマルシャノ・ディアス神父が交替で、宇和島からミサと日曜学校に巡回し、最初の洗礼があった。

1937年 マルシャノ・ディアス神父、初代主任司祭に着任し、新しい借家に教会を創立した。八幡浜霊籍で第1号誕生。

1941年 戦時中、マルシャノ・ディアス神父は、イシドロ・アダネス神父と共に、主に宇和島に在住した。

1943年 八幡浜昭和通り、裁判所側に家を購入。同49年松陰小学校跡の現教会地を入手し賄部屋を建設。同50年、昭和通りに教会、附属幼稚園新築し、9月25日八幡浜教会献堂式。11月1日、幼稚園が開園した。



初代聖堂



初代聖堂内部



初代主任司祭の碑

1952年 八幡浜教会で100人目の洗礼があった。

1954年 八幡浜聖母幼稚園を改築。

1968年 八幡浜教会信者会報が発行開始された。

1969年 愛媛地区信徒使徒職協議会が発足した。

1990年 八幡浜教会50周年記念ミサが開催された。

2017年 八幡浜教会小教区創立80周年記念ミサを開催。

2018年 八幡浜教会でベトナム語ミサ、月1回開催。

2019年8月 耐震強化目的の幼稚園

再建のため聖堂改築

2020年5月25日 再建聖堂献堂



県道にたつ看板



2020年再建聖堂

2020年6月18日 聖堂教区長祝福

2021年5～9月 南予ブロック霊性研修会

2021年6月 コロナ禍オンラインミサ開始

2022年10月30日 再建後初の南予

ブロック交流会にて再建聖母幼稚園で初ミサ

2022年11月25日日本語版典礼改訂

2023年1月 前教区長諏訪榮治郎名誉司教が主任で着任

2024年6-7月 聖堂の増築工事